

令和6年度 第1回生涯研修会  
受講者皆さまからの質問

1. 高齢者の方々に、口腔機能低下症のお話をしてあげたいのですが、本人から訴えがない場合の何かきっかけ作りがありましたら教えてください。  
「ごはんおいしく召し上がれていますか？」と聞いてみると良いと思います。  
その会話として、「最近食欲がない」「むせやすい」「咬みにくい」などの回答があれば、口腔機能低下症の検査が受けられることをご案内できます。  
あとは治療の際（注水時）に、むせが観察されたら、食事でむせることはないか聞いてみると評価に繋がると思います。
2. 誤嚥性肺炎は小児でもおこることがよくあるのでしょうか？  
小児で誤嚥性肺炎を起こす例は高齢者に比べると圧倒的に少ないですが、みられることはあります。特に医療的ケア児に多くみられます。健常児の場合は滅多にないと考えます。
3. 動画の中で舌圧測定器を先生が把持されていましたが、先日受講した研修では測定される患者自身に把持して口腔に挿入してもらい測定すると話しがありました。ケースバイケースでしょうか。  
基本的には検査者（歯科医師または歯科衛生士）が把持して行うことが一般的ですが、状況によっては患者さんに把持してもらっても良いと思います。
4. 本日の講義ありがとうございました。口の中に食べ物を入れたままなかなか飲み込まない（肉をモグモグして飲み込めないでいた）→訓練としてリンゴを皮つきのまま1センチ幅におやつとして出してもらおう。（自分でどれくらいの量を口に入れるとよいかを知ってもらうこと、前歯で噛み切る。皮つきなので咀嚼回数も必要であること、しっかり噛んで食べることの声掛けを行う、必ず保育士が見守る）この内容で良かったのか回答はありませんが、これも一つの訓練でよろしいのでしょうか。  
これについては、その患児の機能発達のレベルによって考え方が変わるので注意が必要です。上記ケースは状況がわかりませんが、咀嚼訓練として行うのであれば、まずは赤ちゃんせんべいやかっぱえびせんなどを用いるのが安全と考えます。機能獲得の段階によっては上記対応も可能な場合もありますが、機能獲得が不十分な場合に無理に進めることで、かえって誤った食べ方を学習してしまうこともあります。
5. 老健で勤務しています。対象者は認知症がある高齢者になるのですが、歯が全て生えそろうっていても舌の機能が低下していれば嚥下に時間がかかるのは理解していますが、ミールラウンド等で口の動きを見ても評価が難しいです。介護職員や栄養士などは歯や義歯が

あれば普通に食べられると思っているようですが、どのように説明すれば良いでしょうか？

歯は咀嚼をするための道具であって、使いこなす機能が衰えていけば難しくなることを説明し、理解いただけると良いと思います。身体機能（筋力や器用さ）が低下してきていけば咀嚼機能も衰えていることは想像しやすいと思います。講演の中で説明した餅つきの例がわかりやすいでしょう。

6. 小児の口腔機能に対する意識認識がまだまだ低いため、子育て家庭に向けて啓蒙が必要だと感じましたが、問題意識のない方たちへの伝え方、されている取り組みがあれば教えてください。

まわりの同世代の子たちと比較をして、焦りから無理に固形食を食べさせてしまうことで、機能獲得に繋がらないばかりか、偏食等の悪影響を引き起こすことがあります。かといって、一生懸命に取り組んでいる保護者に対して、否定的な伝え方（伝わり方）をしてしまうと、指導を受け入れてもらえないばかりか、精神的に傷つけてしまうかもしれません。まずは困り事や悩み、気になっていることを聞き出し、個人差があるため、焦らなくてもよいことを伝え、寄り添いながら一緒に成長を見守っていく姿勢が大切と考えます。安心感を与え、保護者の方を癒すことが信頼関係を構築するベースになります。その上で、気付きや行動変容のきっかけを与えることを意識して、指導を行います。信頼関係ができれば、指導が伝わりやすくなります。